

平成30年度普及活動外部評価会
普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言
(全体をとおして)

1 普及指導活動の体制（課内の分担・活動の進ちょく管理・普及指導員の資質向上の取組）

- 役割分担はしっかりできている。全体的に普及指導員の人員が少ない。
- チーム会など定期的実施され進ちょく管理ができている。
- 新しい技術が入る中、個人的によく勉強し、自己研鑽している。
- 若い職員が増えてきて、人間関係をどう作っていくのかが課題。高齢者に対するコミュニケーション力も必要。

2 普及指導活動の計画（普及課題の設定・対象の設定・関係機関との連携・目標設定）

- 環境制御だけが技術ではない。情報源の乏しい農家にも寄り添ってもらいたい。普及指導は伴走型。寄り添って支えてくれる普及指導員が生産者に安心感を与える。
- J A、市町村等関係機関と連携ができている。

3 普及指導活動の成果（活動の経過・実績・成果・結果の周知）

- 丹念に現場へ出向いて、人間関係を作ってから指導ができている
- 普及指導活動を主にして、普及指導員だからできた仕事であることを伝えてほしい。
- 次年度の課題へのつながりが見えにくい。P D C Aの発表の仕方を工夫する。課題が出せないなら、仮説を立てて取り組んだことを表現するとよかった。

4 外部評価会に対する意見

- 現地調査をすることで発表が理解しやすくなった。
- 評価会のやり方は良かったが、資料をもっと簡潔に工夫する。
- 環境制御技術が2課題あった。バランスを取って課題を選定する。
- 時間配分は良かった。
- 成果の発表会ではないので、普及が工夫したこと、困っていること、苦労したことを前面に出す。

5 その他

- タブレットを利用することは良いが、その後どのようにつなげていくのかが課題
- 高知の発展には一次産業が安定的になること。儲けてもらうこと。
- 若返りの時代に入る。10年後は違う普及になっている。